

高齢診療科

● スタッフ（平成27年10月1日現在）

診療科長 羽生 春夫
 医局長 金高 秀和
 病棟医長 清水 聡一郎
 外来医長 馬原 孝彦

医師数 常勤 13名
 非常勤 9名

● 診療科の特色・診療対象疾患

我が国では、既に高齢化社会を迎えて久しく、国の基本的な方針としての健康寿命の延伸や活力ある長寿社会の構築が急務である。従って、老年医学の役割はますます重要となっている。複数の疾患を併せ持ち、若年者とは生理学的にも大きな相違がある高齢者の診療では、臓器別、領域別ではなくより包括的または全人的な診療が求められる。当科では、高齢者の総合的な診療を中心としながら、特に認知症、脳卒中や、老年症候群、フレイルなどに関しても、積極的に診療を行っている。

● 診療体制と実績

1) 外来診療体制と実績

地域医療機関との「認知症ケアネットワーク」を構築し、病診連携を積極的に推進している。鑑別診断の後に、紹介元へ逆紹介によって認知症治療の継続やケアを依頼、認知症の症状に困った変化があれば随時再診可能など、かかりつけ医との病診連携体制が確立している。現在では、外来初診の70%以上が、地域医療機関からの紹介患者となっており、逆紹介率は100%を超えている。なお、平成27年度の初診患者総数は2456名であった。

もの忘れを主訴とする初診患者はここ毎年約1000名程度におよび、身体所見、一般検査（血液検査、髄液検査、生理機能検査）、神経心理検査、画像検査を行って早期診断を行っている。

これまで推進してきた地域連携、診療実績が評価されて、平成27年9月に東京都より当院は「認知症疾患医療センター」に指定された。羽生主任教授がセンター長を兼任し、東京都西部二次保健医療圏における地域連携型センターとして認知症の早期診断と対応に貢献している。

また、脳神経外科や神経内科と協力しながら高齢者の脳卒中急性期治療にも精力的に参加している。さらに、認知症・神経疾患以外にも、75歳以上高齢者の総合内科的診療も担当している。高齢者特有の感染症（誤嚥性肺炎、带状疱疹など）、骨代謝疾患、悪性腫瘍（悪性リンパ腫や骨髄腫などの造血器腫瘍を含む）など広範な領域にわたる高齢者（75歳以上）の診療も幅広く行っている。

図1、2に初診外来、再診外来の疾患別割合を示す。

2) 入院診療体制と実績

高齢者の診療に際しては、身体面だけではなく、精神心理面、生活機能面からも総合的な評価が必要となる

ことから、高齢者総合機能評価ツールを用いて、院内の高齢患者の機能評価のスクリーニングを行っている。入院定床は25床であり、平成27年度の平均稼働率は98.85%、のべ入院患者数は450名であった。図3に入院患者疾患別割合を示す。外来とは異なり、入院の原因となる疾患は、非常に多岐にわたる。当科では、疾患毎ではなく、全人的な質の高い総合診療を提供している。

図1：平成27年度外来初診患者疾患別割合（%）

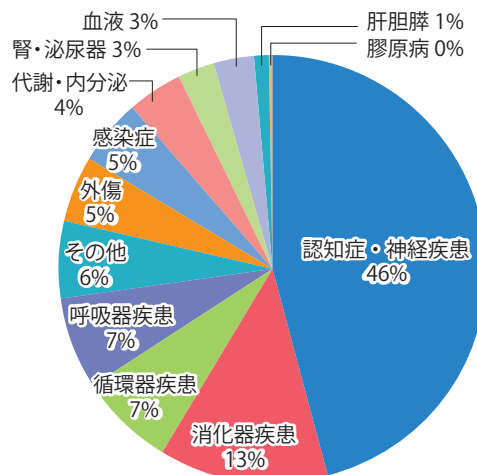


図2：平成27年度外来再診患者疾患別割合（%）

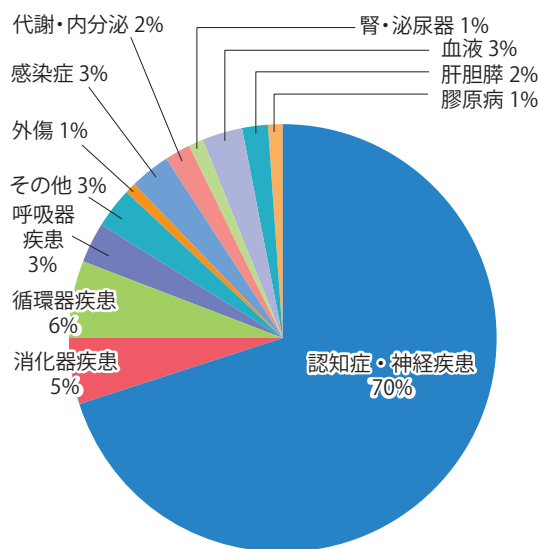


図3：平成27年度入院患者疾患別割合（%）

